



DBKだより

第28号
2023年11月1日
ドン・ボスコ基金



平和のきずなで結ばれて、
霊による一致を保つように努めなさい。

(エフェソの信徒への手紙4章3節)

トピック 南スーダン：続く内戦 物価高騰による学校教育への影響／南スーダンで活動するサレジオ会司祭に聞く／モンゴル：学童保育と青少年センターを新設／ウクライナ：続く人道支援 爆撃された学校の子どもたちが学ぶ場を／シリア：戦禍の地を襲った大地震 人道支援と心のやすらぎを与える場に／ベトナム：北ベトナム管区 奨学金支援のお願い／ペルー：リマ市とアマゾン地域での活動／スリランカ：奨学生のための寄付のお願い／日本：星美ホーム サローネ建設資金に感謝を込めて／日本：多文化共生センター 継続支援への感謝

恩人の皆さまへ

秋の涼しさを感じる頃を迎えておりますが、皆さまお変わりなくお過ごしでしょうか。

3年続いたコロナウイルスとの闘いは少しずつ収束に向かっておりますが、人と人との闘いは一向に収束することがありません。ロシアがウクライナに侵攻してから早1年半が経ちました。この間、実に多くの人の命が奪われ、多くの人が家族を奪われ財産をなくし、生きる気力さえ奪われました。何がこれ程までに無意味と思えるような闘いを続けさせるのでしょうか。

ウクライナのジトーミル（キーウから西へ約140km）にサレジオ会の学校があります。5月の情報（動画）では、子どもたちが祈る姿が映っていました。女の子は「神よ、この戦争を我々の勝利で終わらせてください。アーメン。」と祈りました。相手の国ではなく、自分の国の勝利によって戦争を終わらせてくださいと。

もう一人の男の子は「神よ、どうかこの戦争を終わらせ、二度と繰り返させないでください。アーメン。」と祈りました。これは、シンプルな祈りですが、自国民にとっても相手国民にとっても受け入れられる祈りであり、彼らの祈りに合わせて私たちも一緒に戦争の終結、世界の平和を祈りたいと思います。

最近、あまり報道されなくなったミャンマーをはじめ、エチオピアや他の国々でも大変な状況は依然として続いているようです。どうぞ今後ともドン・ボスコの霊性に基いた活動へのご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

皆さまのうえに主イエスの祝福とお恵みが豊かにありますようお願いいたします。

2023年10月

DBK [ドン・ボスコ基金] 代表 濱口 秀昭
(サレジオ会日本管区長)

南スーダン 続く内戦、物価高騰による学校教育への影響



7年前に皆様の支援金で250本のグアバの苗を買い、毎年多くの実がなり、子どもセンターの100人の子どもたちが1週間は食べられます。体験学習に来ているベトナム人のシスターも2年目がんばっています。



最近、外国から来るトモロコシの粉、豆など悪いものが南スーダンに輸入されているため、お店の人が持ってきたものをチェックします。

イエスのカリタス修道女会宣教女 シスター下崎優子

いつも南スーダンのためにご支援くださり、心より感謝申し上げます。

スーダンの内戦はまだ落ち着かず、多くの南スーダン人がスーダンから戻らざるを得なくなり、スーダンと南スーダンの国境付近に難民キャンプができています。政府は国連と連携し支援に努めていますが、先が見えない状況のようです。というのは、今世界中が国連の助けを必要としているため、南スーダンへの支援は減っている状況です。私たちのドン・ボスコ宣教も例外ではなく、WFP国際連合世界食糧計画からの食料配布が減っています。現在は、カリタス南スーダンの協力の下に、スーダンから帰ってきた南スーダン人の人たちが、私たちドン・ボスコの小教区にいる人たちの支援も始めました。

2011年の独立から12年の記念を7月に迎え、いろいろな政策に取り組んでいますが、部族の習慣のほうはまだ強く、数多くの部族がひとつの憲法の下にまと



サレジオ会の修練志願者と道の舗装。赤土の粘土状で、とても重く力が要る仕事です。

まることはまだまだ難しさがあり、たびたび土地の問題、家畜の問題で争いが絶えない状況です。来年は延期し続けた大統領選挙が行われる予定ですが、人びとは、また内戦が起こるのではと懸念しています。

医療、教育は、教会や、NGOが大きく支えている現状です。国民が働く場所がないために、現金収入先も少なく、親たちは子どもの学校の費用を支払えません。政府は学校の授業料の無償化を打ち出しましたが、先生に支払う給料が少ないために、先生たちが、もっと収入が入る仕事や個人ビジネスをするためにやめてしまい、どこの学校も先生不足です。

サレジオ・シスターズの学校は私立なので、授業料無償化の対象ではなく、生徒が支払う授業料で経営をしています。高い授業料にすると家族の中で、たとえば7人兄弟、姉妹だと半分は学校には行けません。そのために、ほかの学校よりも少ない授業料で、一人でも多くの子どもが学校に通えるようにしていますが、ロシア、ウクライナの長引く戦争で、穀物の輸入がへり、物価が高騰している影響は南スーダンにも来ていて、先生たちが賃金値上げを訴え、数人は離れていき、残った先生たちは学校に来ても、授業をしないという状態です。校長のシスターは先生の給料を上げるためには子どもたちの授業料を高くしなければならず、そうするとお金を払えない子どもは、学校を辞めなければなくなり、そのジレンマに苦しんでいます。

世界中が、コロナと戦争の影響で、外からの支援に



診療所担当のシスターが赤ちゃんの予防接種

だけ頼ってはいはだめだとわかっていても、国自体がまだ成長の途中で、自立していくためには時間がかかる状況です。そのために、私たちも自分たちでできることはやろうと、敷地内の道が雨で土が流された所を、業者を雇うとお金がかかるため、自分たちで土を運んできて道の舗装作業をサレジオの修練志願者と共に行ったりしています。

日本も、物価の値上がり、コロナの影響で多くの方が職を失い、子どもたちの中には学校の給食が一日の食事ということで、地域で協力し、子ども食堂などができていると聞きました。そんな中でも南スーダンのために、支援金を分けてくださり、助けていただいていることに本当に心から感謝いたします。この国の人たちが、1日でも早く自立し、他の国を助けることができるまでに成長できるよう、私たちの宣教は微々たるものですが、がんばっていきたいと思います。ありがとうございました。

【インタビュー】 南スーダンで活動する サレジオ会司祭に聞く 国家の安定のため重要となる 全人的教育



写真左から、森戸神父、ヨセフ神父、アンティミ神父。調布サレジオ神学院にて

南スーダンで活動し現地で司祭に向けての勉学を積んでこられた森戸千尋助祭の司祭叙階式が、2023年9月2日、カトリック碑文谷教会にて行われ、森戸司祭となりました。

今回、森戸神父と前述の叙階式のために来日した前東アフリカ管区長ヨセフ神父、南スーダン共和国・スーダン国 委任地区長アンティミ神父、イエスのカリタス修道女会シスター下崎に、調布サレジオ神学院でお話を伺う機会を持つことができました。

●国家ナショナリズムよりも部族トリバリズム

南スーダンの現況ですが、政府に入るお金を国民のために使うよりも、武器の購入等の軍事費に使ってしまっています。スーダンでの内戦が20年以上続き、南スーダンとして独立してから12年しか経っていないので、まず自分たちの安全を考えるという意識が働いてしまうのでしょうか。主要な部族が中心になって独立を勝ち取り、その部族が政府の中心をなしています。部族が違うと文化も言語も違います。主要部族の多くは軍で働いています。彼らは銃を持っているので、やはり周りは銃が怖い。まだまだ国家ナショナリズムというよりも部族トリバリズムが強く、旧約聖書の時代と同じようです。

近隣のタンザニアは独立してから60年経ち、部族意識よりも国民意識になっています。初代大統領（カトリック信徒）のリーダーシップが部族を越えて、国全体をまとめました。南スーダンも早く一つにまとまった良い国になるよう願っています。

●南スーダンへの支援の流れ

オーストリアにあるカリタスオーストリアからの支援で、学校の生徒たちの給食や、先生たちの給与に充てることができています。教科書も買うことができています。

今までDBKからの支援金は、日本のイエスのカリタス修道女会を通してシスター下崎が直接受け取り、すべて食糧を購入しそれを配る事に充てていました。子どもたちは一日1回の食事がとれるかどうかという状況なのです。

同じサレジオ家族ですが、サレジオ会、サレジアン・シスターズ、イエスのカリタス修道女会は、同じ敷地にも活動は別々なので、お金はそれぞれで独自に管理しています。しかし、困った時にはお互いに相談に来るので助け合います。時には、生徒たちが授業料を払えなくて学校をやめなければならないから助けてください、といった相談もあります。個別で授業料を出してあげたり、サレジアン・シスターズの方で給食を出すことができないかなどと相談し、協力しあっています。

今後は、日本管区長との話し合いで、DBKの支援金は森戸神父が赴任するサレジオ会の教会を窓口として送るようになる予定です。

●サレジオ会は教育に力を入れている

南スーダンの人口構成は、60～70%が青少年で、その半分程度しか小学校に行っていません。また、小学校に通う子どもたち全員が卒業できるわけではなく、女子の場合12～14歳ぐらいになると、親から結婚するように強要され、教育を続けることができなくなります。

南スーダンの学校の授業料は様々ですが、サレジオの学校の授業料は小学校で年間約100ドルです。今、DBKからご支援いただいているお金で50人の生徒を1年間、食べ物を含めて、サポートできます。国の将来のためには教育は重要です。DBKからの支援金を主に教育に使っていくことを検討してみます。

●南スーダンでの宣教

南スーダンではカトリックが主要な宗教で、国民の半数以上がカトリック信者です。一方、土着の文化の影響はあり、土着の文化の上にカトリックがあるということも事実です。カトリックの洗礼を受けていても、一夫多妻の習慣は残っていますし、社会では女性の地位は低く、家庭内では女性が物のように扱われていて、それを子どもたちが見ています。私たちは学校教育を通して、言葉と行動で、あるべき姿を示してゆかなければなりません。

人間の全人的な発展を目指した教育を通じて福音を伝えていきたいです。学校のグッドモーニングトーク、「宗教」という科目の時間等で、キリスト者としての感性と生き方が養われる教育が行われるよう心がけています。

サレジオ会は国内に、まだ5つの支部しかありません。今後はまだサレジオ会が入っていない地方、もっと奥地に行かなければならないと思っています。

私（森戸神父）がかつて出会った2011年当時のストリートチルドレンはもういません。どこへ行ったか尋ねると、路上でマラリアに感染して死んだか、牢屋で死んだだろうと言われました。今、路上で過ごしている子どもたちの将来を守らなければならなりません。そのためには、人材と資金が必要です。私は貧しい人びと、悲しみ苦しんでいる人びとに主イエスの愛を届けるために叙階されたと思っています。

モンゴル 学童保育と 青少年センターを新設



モンゴル聖パウロ小学校の全教職員

サレジアン・シスターズ宣教女 シスター小島華子

皆さん、お元気でいらっしゃいますか？

私がウランバートルからゾーンモドに越して来て、早2年が過ぎようとしています。私が働いている教区の小学校は今年の6月で閉鎖されました。モンゴルの私立学校は何年かごとに許可を更新しなければなりません。

私がここに赴任してから司教様と数人のスタッフと共に識別をし、現在のこの地域にとって必要なのは学校ではないという結果に至りました。そして5月に満期を迎えた学校経営の許可を更新せず9月の新学年度から学童保育と青少年センターを開くことになりました。

学校で勉学についていけない、教師にも見捨てられた子どもたち、家庭で十分な養育を受けることができない子どもたちのために格安で学童保育を、青少年の視野を広げ興味とスキルの幅を広げるために青少年センターを、庭には運動器具を設置し人びとの健康維持を保つための場所を、東屋を設置してお年寄りが共に楽しい時を過ごせる場を提供する計画です。

青少年センターでは現在のところ英語と音楽の授業を開始する予定ですが、将来的にはダンス教室やカウンセリングルームも設置する予定です。

校庭を大々的に変更する予定ですので相当な時間と費用がかかりそうですが、識別を通してこの新事業のイニシアティブを取ってくださる御父がすべてを配慮してくださると信じて、この地域によりよく奉仕できるため、特に子どもたちのために全力を尽くしていきたい

と思います。

これからも応援をよろしくお願いいたします！

ウクライナ 続く人道支援 爆撃された学校の 子どもたちが学ぶ場を



ANS サレジオ通信局
2023年7月20日付

ウクライナでの戦争の勃発は、まさに悲劇ですが、この危機の中心にあるサレジオ家族にも影響を与えています。サレジオ家族の男女修道者、信徒は命の危険を冒して、使命を継続し、彼らに託された若者と人びとを守るために全力を尽くしています。

人道危機に直面しているドン・ボスコの子らは、自分たちの職場やセンターに収容されている若者たちを可能な限り保護しようと努めています。これには次のことが含まれます。

- ・ウクライナ東部のセンターから西部のより安全な都市に困窮者たちを輸送する。
- ・西部の都市で難民を受け入れる（彼らのためのスペースを作ることを含む）。
- ・防空壕の建設。

リウボミリフカの生徒数200人、11クラスの学校は爆撃により完全に破壊されました。ドン・ボスコのサレジオ会員でビブルカの主任司祭であるヨーゼフ・ヌコフスキー神父は、市長にこの状況を説明しました。

「ここにいてくれてありがとう。もっと頻繁に私たちを訪ねてください」、とナディア市長は、米国ニューロシェルに拠点を置くサレジオ会ミッション・オフィスが作成したビデオの中で述べています。「私たちの学校を見

てください。新しい学校でしたが、瓦礫と化しました。大きな爆発と大きな衝撃音がしました。そこは大きな学校で、生徒たちは2台のスクールバスで運ばれました。今、私たちには大きな問題があります。私たちの子どもたちはどこで勉強したらいいのですか。」

シリア 戦禍の地を襲った 大地震 人道支援と心の やすらぎを与える場に



Photo © Misiones Salesianas

ANS サレジオ通信局
2023年7月10日付

2023年2月6日未明にトルコ北部で発生した地震（トルコ・シリア地震）はシリア北部にも大きな被害をもたらしました。北部の都市アレッポが戦争で疲弊し、さらに弱体化していることが浮き彫りとなりました。シリア国民はこの大地震によって再び試練にさらされましたが、再びこの非常事態において団結しています。

アレッポのサレジオ会はドン・ボスコ・ハウスの扉を開き、何百人もの人びとがそこに安全、友愛、やすらぎと信仰を見いだしました。地震から5か月後、青少年イエスに献げられたサレジオ会中東管区（MOR）の管区長であるベネズエラ人のアレハンドロ・レオン神父は、今この国が経験し、今後も必要とする国内外の団結の力に希望を見いだしています。

「15、16歳の若者たちのグループの集会に行った時、あるメッセージを聞いて考えさせられました」とレオン神父は言います。「ある女子学生が言いました。『ここ

では、グラスが半分空なのではなく、半分が満たされていると見るように教えられました。でも問題は、私たちのグラスは空っぽというだけでなく、実際には割れてしまっているのです。この言葉は大げさ、あるいは地震を経験した感情の爆発のように見えるかもしれませんが、私はこの考えに同調はしませんが、その言葉の中には若者たちの現実的状況を考えさせ、共感させるものがあります」とレオン神父は語ります。

「彼らは戦争のない人生の記憶をもたない若者たちです。何年もの間、電気も水もなく、食料も燃料も不足しながら暮らしてきました。彼らは包囲された都市に住み、化学兵器やミサイルによる攻撃を恐れてきた。皆、戦争中に亡くなった家族を悼んでいます。彼らは絶え間ない経済不況の中で暮らしています（長年にわたる戦争、国際制裁、バイルートの港の爆発、レバノンの銀行の破綻…）。コレラの流行や新型コロナウイルス感染症の流行も経験しています。今はどうですか？大地震と少なくとも4回のマグニチュード6を超える余震です」と管区長は振り返ります。

大地が大きく揺れたのは2月6日午前4時17分でした。アレッポのサレジオ会修道院の中庭は、建物から遠く離れた場所に安全を求めて来る人びとでいっぱいになり始めました。不安や不確実な事がありました。アレッポの「ドン・ボスコの家」のマリオ・ムル院長は、最初から「私たちの家はいつでも、必要とする人びとのために開いている」と約束しました。昼食時にはすでに50人の難民が家の中にいて、夕食時には300人になりました。この数は日を追うごとに着実に増えて500人に達しました。そして2月21日、再び強い地震が発生した時には、恐怖を新たにした800人がサレジオ会の家に避難しました。

何年もサレジオ会の活動に参加し、常に青少年キャンプに参加してきた若者たちが、このようにして突然、緊急事態に対処する自然なリーダーになったのです。「大人たちが若者に敬意を払っているのを見て感動しました。彼らが権威者として指定されたからではなく、寛大な奉仕を通じて彼らが獲得した道徳的権威のためです」。

「愛は私たちに誰も想像もできなかった障壁を乗り越えさせてくれました。子どもたちの愛のため、両親たちの愛のため、友人たちの愛のため、神の愛のため…、何も期待する理由がなかった時に、彼らは希望をもって戦う人びとを見つけ、裕福な人も貧しい人も、誰も

が困窮し、持っているものを分け合ったのです」と彼は回想します。

避難所や人道支援だけではありません。人びとがサレジオ会のもとにとどまった理由は他にもありました。「神の家にいる方が安全だから」と彼らは言いました。しばらくして、「神の家は、毎朝の聖体の儀式と夕方のロザリオを通して、地震だけでなく、何よりも孤独と絶望から多くの人びとを本当に守ってくれていると認識しています」とサレジオ会員は説明しています。

中東のサレジオ会管区長が、困難な状況にあるシリアの兄弟姉妹に寄り添ってくださったすべての方々へ感謝の意を表します。犠牲者のために祈ってくれているすべての人に感謝します。私たちが経験しているこの極限状況で何らかの形で助けてくれたすべての人に感謝します。サレジオ会宣教部門を通じて、私たちが最も困っている人びとに奉仕できるよう支援して下さるすべての方々へ心から感謝します。

ベトナム 北ベトナム管区 奨学金支援のお願い



サレジオ会 北ベトナム管区

マーティン・マイ・クイエット・タン神父

日本管区DBK事務局と支援者の皆様。

私はサレジオ会司祭マーティン・マイ・クイエット・タンです。ドン・ボスコ北部ベトナム青少年司牧の責任者をしております。

ドン・ボスコ北部ベトナム管区には11のコミュニティと多数の若者がおります。一般に、若者の精神は非常に純粋で真っすぐです。この地域は低収入の家庭が多く、子どもの教育が難しく、そのため学校を中退する若者も多いのです。管区長とその評議会の承認を得て、親愛なる後援者の皆様に、2023～2024年度の奨学金基金プロジェクトの計画を送らせてください。

1. プロジェクトの目標

- ・善良なキリスト教徒と誠実な市民の育成。
- ・ドン・ボスコの精神に基づいた活動プログラムの開発。
- ・非常に困難な状況にある子どもたちに学校に通い、知識を向上させる機会を与え、彼らに大きな希望と明るい未来を与えることを支援する。

2. 現状

・若者は貧しく、学校を中退しています。

3. 支援対象

- ・小学生から大学生までの年齢層の生徒。
- ・困難な状況にある生徒。

4. 予算計画

- ・小学校：800,000 VND／1人の児童、1年間
(児童53人での見積)
- ・中学校：1,000,000 VND／1人の生徒、1年間
(生徒40人での見積)
- ・高校：1,200,000 VND／1人の生徒、1年間
(生徒25人での見積)
- ・大学：1,500,000 VND／1人の学生、1年間
(学生25人での見積)
- ・総計：143人に150,000,000VND
(1VND=¥0.0061)

親愛なる日本管区DBK事務局と支援者の皆様、上記が、私たち管区が青少年司牧活動を通して、人間教育、助け合いの精神、霊的生活の面において若者を成長させる私の計画です。

ぜひご検討、ご協力をお願いいたします。管区と若者を代表して心から感謝の意を表したいと思います。

ペルー リマ市と アマゾン地域での活動



マリア・タキ保育園 子ども食堂。おいしくいただいています！

イエスのカリタス修道女会 リマの聖女ローザ準管区 シスター中村英子

ドン・ボスコ基金に携わってくださっている皆さま、



アントニオ・カヴォリ学園(リマ) 聖書に基づいた聖週間の行事を終えて

いつもお世話になっております。

ペルー、リマは冬を過ごしています。今年は例年よりも暖かい日が続き、日中は半袖で過ごす人の姿も見られるほどでしたが、春が近いというのに、今週は寒くなるだろうとのニュースを聞きました。朝晩はコートが必要です。多くの地域で大雨が降り、洪水や鉄砲水の被害が起き、その影響もあって物価は日ましに上がっています。

ペルーでは今、リマ市内にある管区本部共同体(リマの郊外にある貧しい地域での保育園の運営と管理)とリマ市で小さな学校を運営している共同体、アマゾン地域で教会活動、貧しい人たちと連帯している共同体の3つがあり、それぞれに4~5人のシスターたちが宣教に従事しています。

昨年まではCOVID-19の影響で実施できなかったマリア・タキ保育園の子ども食堂も、今年4月から開始しています。利用者は以前より少なくなりましたが、それでも、共働きの両親や貧しい家庭の子どもたちにとっては、必要な栄養を満たす場、コミュニケーションの場、食事のマナーを学ぶ場としてよこばれています。

マリア・タキ保育園は教会付属の保育園で、教区から本会が管理・運営を託されています。3歳、4歳、5歳児のクラスで全園児60名位です。毎月の保育費が35ドル程度で、3名の助手、事務職員、夜警への毎月の支払い、園舎の管理などで経済的ゆとりがありません。それで、今回のドン・ボスコ基金からの援助金は、マリア・タキ保育園の必要のために使用させて頂く予定です。

アマゾン地域に住む人びとは一年中暑い気候の中で過ごしています。とても貧しい地域ですが、人びとは日々、神様の恵みに感謝しながら、家族を大切に過ごしています。そこで、私たちは川向うの子どもたちの教育支援をしたり、教会活動に従事して日々を送

ています。

宣教地の子どもたちが大きくなり社会に貢献している姿を見ることは、私たちにとって大きな喜びです。

いつも温かいお心で支援して下さる皆様一人おひとりに心からの感謝をお伝えいたします。皆様とご家族の上に豊かな祝福がありますよう、感謝をこめてお祈りさせていただきます。



7月28日、ペルーの独立記念日に保育園の周りを保護者と共に行列しました



マリア・タキ保育園 国旗の日の行進



アマゾン地域の子どもたちとパイパヤの若木の前で（プカルバ）



マリア・タキ保育園の子どもたちが住む村の様子。雨が降らないため緑がほとんどありません。



アマゾン地域のミサにはたくさんの信徒が参列します。（プカルバ）

スリランカ 奨学生のための 寄付のお願い



スリランカの奨学生たち

いつもドン・ボスコ基金（DBK）の活動にご賛同・ご協力いただき、ありがとうございます。皆さんご存じのとおり、ドン・ボスコ基金の目的は特に助けを必要とする青少年を保護育成する国内外のプロジェクトを支援しております。

本号においてもベトナム管区北部の奨学生寄付について掲載をしておりますが、同様にスリランカからも求められております。こちらについては3年前から始まり、年間50万円を最低10年間は継続することをスリランカのサレジオ会と約束しているところです。

ドン・ボスコ基金として、奨学生を安定的に支援していきたいと考えております。

そのため、改めて皆様に奨学生のためのご寄付をお願いしたく考えております。奨学生の写真とお礼の手紙を掲載します。

ご賛同いただける方は通信欄で「奨学生寄付」と明記していただけると幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。

また、ドン・ボスコ基金の活動に今後ともご協力いただきたく、重ねてどうぞよろしくお願いいたします。

スリランカより感謝の手紙

サレジオ会 スリランカ準管区
院長・校長 スシス・ミルロイ神父

支援者の皆様、ドン・ボスコ・ダンコトゥワからこんにちは!

私は、生徒たちに対する皆様の心優しい経済的援助に感謝するためにこの手紙を書いています。

神が皆様を祝福し、聖母マリアが皆様の心と体をあらゆる危険から守ってくださいますように!

私たちの生徒たちは健康でよく勉強しています。

財政危機や国内の混乱した状況の中でも、学校での私たちの日常活動は良い形になりつつあります。

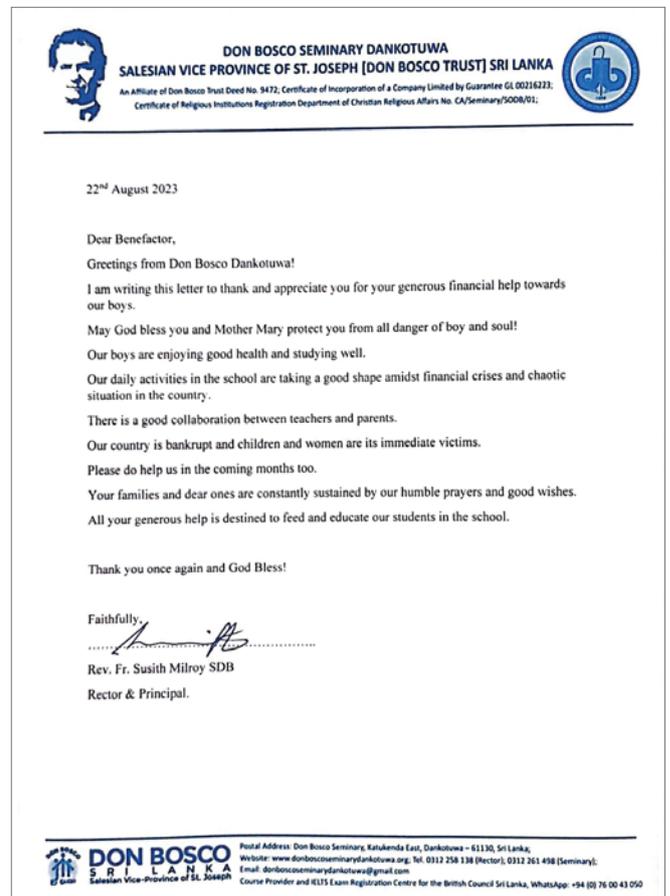
教師と保護者との連携は良好です。

私たちの国は破産しており、子どもたちと女性が直接の犠牲者となっています。

今後とも引き続き皆様のご支援をお願い致します。

皆様の家族や大切な人びとのために、私たちは心からの祈りと願いを捧げます。

皆様の寛大なご支援はすべて、学校の生徒たちの



スリランカより感謝の手紙

食糧と教育ために使われます。

重ねて感謝申し上げ、神の恵みをお祈りします！



DON BOSCO SEMINARY DANKOTUWA
SALESIAN VICE PROVINCE OF ST. JOSEPH [DON BOSCO TRUST] SRI LANKA
An Affiliate of Don Bosco Trust Dred No. 9472; Certificate of Incorporation of a Company Limited by Guarantee GI 00216223;
 Certificate of Religious Institutions Registration Department of Christian Religious Affairs No. CA/Seminary/SC08/01.



22nd August 2023

Dear Benefactor,

Greetings from Don Bosco Dankotuwa!

I am writing this letter to thank and appreciate you for your generous financial help towards our boys. All your generous help is destined to feed and educate our students in the school. Please find the list of the beneficiaries below:

W. NETHUSH NISHAN IMALSHA FONSEKA	<i>Nethush</i>
W. NIKESH METHUSHAYAL FERNANDO	<i>Nikesh</i>
W. ALOKA DENETHE FERNANDO	<i>Aloka</i>
W. NIROMIAN FERNANDO	<i>Niromian</i>
W. DIMITH MARSHAL FERNANDO	<i>Dimith Marshal</i>
W. SHAVIN NETHUSHA LOW	<i>Shavin</i>
W. SHARON EZECHIEL FERNANDO	<i>Sharon</i>
W. JEROM ENOSH FERNANDO	<i>Jerom</i>
W. SHEM ENOSH FERNANDO	<i>Shem Enosh</i>
M. SHALOM DILAKSHANA FERNANDO	<i>Shalom</i>
J.M.D. RASANJANA DILSHAN	<i>J.M.D.</i>
P.D. HASHEN INDUWARA	<i>Induwar</i>
S. SENUKA NIMESH	<i>Senuka</i>
W. SUSAN SATHSARA VAZ	<i>Susan</i>
W. SHANAL SILVA	<i>Shanal</i>
F. MICHAEL RIXMEN	<i>Michael</i>

Thank you for your thoughtfulness, care and generosity! Please continue to help us in these times of crises. Thank you once again and God Bless!

Faithfully,

 Rev. Fr. Susith Milroy SDB

Postal Address: Don Bosco Seminary, Katukenda East, Dankotuwa - 61130, Sri Lanka;
 Website: www.donboscoseminarydankotuwa.org; Tel: 0312 258 138 (Rector); 0312 261 498 (Seminary);
 Email: donboscoseminarydankotuwa@gmail.com
 Course Provider and IELTS Exam Registration Centre for the British Council Sri Lanka, WhatsApp: +94 (0) 76 00 43 050

奨学生のリスト

日本・東京 星美ホーム サローネ建設資金に 感謝を込めて



社会福祉法人扶助者聖母会 星美ホーム
理事長 シスター見城澄枝

ドン・ボスコ基金支援者の皆様、数年にわたり、星美ホームサローネ建築のために援助していただき本当にありがとうございました。今回の支援を最後にサローネも完成の運びとなります。日本のみならず世界中で、このドン・ボスコ基金をたよりにどれほど多くの人たちが助けられていることでしょう。

経済的には恵まれているといえるこの日本においても、子どもたちが住むために、最低限度必要な場所であるとは認められないサローネのためには、国からの補助



建設中のサローネ

金はありません。でも、私たちサレジアンにとっては、なくてはならないサローネなのです。

当初予定されていたサローネの規模を資金不足のため、多少小さくして工事を始めました。この秋、2023年10月末には完成の予定です。これまで、支援を続けてくださった皆様方のおかげでここまでたどり着くことができました。

創立者聖ヨハネ・ボスコは子どもたちの教育のために、演劇・スポーツ・音楽などを大切にしていました。サローネ完成の暁には、子どもたちのために大いに活用させていただきたいと思います。

小さいときから、心身にダメージをうけて育てられ、親元をはなれて生活しなければならない子どもたち、ずっと我慢に我慢を重ねて居場所を感じる事ができないまま中高生になり、児童養護施設で生活することになった子どもたちに、このサローネを通して未来に夢を持つ子どもへと成長して行ってほしいと願っています。皆様の寛大な援助に、心からお礼申し上げます。感謝のうちに。

日本・東京 多文化共生センター東京 継続支援への感謝

多文化共生センター東京
代表理事 柁木典子

いつも多文化共生センター東京をご支援いただき、ありがとうございます。

この度は多文化共生センター東京にご寄付をいただき、誠にありがとうございます。継続してご支援いただき感謝申し上げます。頂戴しましたご寄付は、団体運営と子どもたちのために大切に使用させていただきます。

暑い日々が続きますが、「たぶんかフリースクール」では夏学期の授業が行われています。

荒川校と杉並校を合せて、9つの国にルーツを持つ40名の生徒が学んでいます。土曜日のボランティア教室は、7月から対面での予約制をやめ、コロナ禍以前のように、自由に参加できる形に見直しました。

事務局・講師一同、子どもたちのサポートをさせていただきます。引き続き、ご支援、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

ドン・ボスコ基金 2022年度収支報告書

(2022年4月1日～2023年3月31日)

(単位：円)

収入の部			支出の部		
寄付希望先	金額	備考	寄付先	金額	備考
ハッピーハウス	47,500		ハッピーハウス (FMA)	200,000	
Kiitos	17,500		Kiitos	100,000	
浜松学習支援	1,000		浜松教会学習支援	200,000	
星美ホーム	848		星美ホーム (FMA)	200,000	
			ドン・ボスコ オラトリオ (SDB)	200,000	
			東京サレジオ学園 (SDB)	200,000	
日本国内	210,242		多文化共生 センター	200,000	
ポリビア(倉橋神父)	611,712		ポリビア (SDB)	650,000	※3
ベトナム	36,529		ベトナム (SDB)	200,000	※3
エチオピア	19,797		エチオピア (SDB)	200,000	※3
ウクライナ	3,358,608		ウクライナ (SDB)	3,500,000	※3
トルコ・シリア地震	556,119		トルコ・シリア地震	1,000,000	※3
東ティモール	4,000	※1			
			スリランカ (SDB)	500,000	※3
モンゴル	151,950		モンゴル (SDB)	500,000	※3
			モンゴル (FMA)	800,000	※4
ハイチ	2,000	※2			
南スーダン	218,843		南スーダン (SCG)	800,000	※5
ペルー	1,000		ペルー・ポリビア (SCG)	500,000	※5
			ブラジル (SCG)	500,000	※5
任意	6,312,134				
寄付金 小計	11,549,782		寄付送金 小計	10,450,000	
<寄付外収入>			<支援外支出>		
銀行口座利息	21		寄付金送金手数料	30,160	
			DBK だより発行	131,916	
			事務関係経費	35,454	
			諸経費 小計	197,530	
前年度繰越金	1,382,290		次年度繰越金	2,284,563	
収入の部 合計	12,932,093		支出の部 合計	12,932,093	

*収入の部は2022年4月1日から2023年3月31日までに受け入れた寄付金の金額の総計となっています。

**支出の部は2023年3月31日までの受入資金を分配して送金したものです。

略号の説明 SDB: サレジオ会、FMA: サレジオン・シスターズ、

SCG: イエスのカリタス会 () のものは関係修道会

※1 東ティモールの寄付金は金額矮小のため次年度に送金することにいたします。

※2 ハイチへの寄付受け付けは終了しております。そのため任意寄付とさせていただきます (寄付受入額以上の金額を送金済です)。

※3 サレジオ会関係の国際送金はサレジオ会日本管区本部経由で送金いたしました。

※4 サレジオン・シスターズ関係の国際送金はサレジオン・シスターズ日本管区本部経由で送金いたしました。

※5 イエスのカリタス会関係の国際送金はイエスのカリタス会日本管区本部経由で送金いたしました。

印のない寄付先はドン・ボスコ基金口座から直接送金しております。

DBK [ドン・ボスコ基金] に ご支援くださった皆様

2022年8月1日～2023年7月31日の間に、DBK [ドン・ボスコ基金] に募金してくださった方々です。

匿名の方も含めまして、恩人の皆様からの寛大なご支援とお祈りに、心より感謝申し上げます。

【個人】〔敬称略〕

麻生 公子、安部 恭子、阿部 早苗・鋼、安部 博文、阿部 正子、甘利 理香、荒川 幹子、有田 美智子、飯島 美智子、飯沼 武、五十嵐 迪雄、池尾 久美、井沢 由紀子、石崎 真理子、石突 真理子、一原 聖子、伊藤 裕子、今塩 宏之、今村 信之、入江 千鶴子、岩下 美和、上田 つや子、白井 芳晴、宇田川 晴子、内河 純子、梅田 博子、江口 政江、衛藤 文徳、榎戸 敬三、海老 志保子、遠藤 昌子、大石 雅子、大熊 理津子、大竹 不二子、大谷 和功、大水 健二、岡田 尚彦・久美子、岡部 めぐみ、岡本 昌子、小川 由子、小椋 久光、越智 史恵、小野 美樹子、小山田 匡宏、梶田 みどり、勝井 豊、加藤 慎次郎、加藤 依子、加藤 恭平、河島 保子、川尻 達也、川見 利津子、岸本 典子、木村 真智子、金原 洋、窪田 容久、久米 倫男、倉科 紀美子、藏本 麻里、栗木 幸子、黒崎 雅浩、桑野 貴己子、毛塚 隆之、毛原 日出世、小島 毅、近藤 幸恵、坂本 秀子、坂本 順子、佐々木 恵子、佐藤 朝子、佐藤 香代子、佐藤 雅代、佐野 淑子、猿川 昭義・禮子、椎原 伊三男・園美、柴崎 憲子、志水 由起子、下里 亘、正司 尚子、白水 泰子、杉本 俊郎、杉山 信彦、鈴木 朝美、鈴木 マリコ、住本 恵子、曾根 美香、高木 信子、高島 晶子、高島 正人、高瀬 美保・由紀子、高野 仁、高平 久美子、辻村 寛行、鶴見 典子、戸村 信子、鳥居 孝一、中尾 友和、中澤 けい子、中西 敏子、長野 麻子、中野 隆正、中村 ツイ、西 一恵、西ヶ谷 裕子、西澤 千恵子、西田 浩朗、西出 治彦、二村 文子、野口 幸子、野田 朋花、野中 あゆみ、橋本 世紀子、花岡 暉、濱口 俊光、浜崎 廣光、原之園 容子、日向 育子、平井 隆史、平川 厚子、平田 久子、平手 政夫、平松 ケイ子、広川 澄子、福地 直義、藤井 美知代、藤嶋 史子、藤田 満智子、藤村 栄三郎、藤原 礼子、舟木 栄子、古木 裕行、前田 玲子、松田 宏紀、松田 律子、松本 辰也、右 知子、水谷 義晴・とし子、宮崎 智子、宮澤 正・香織、宮脇 章朗、宮脇 和子、三好 明子、村田 玲子、望月 のりこ、八木下 泰博、安永 敦美、柳川 智美、山合 健三、山頭 幸枝、山家 信雄、山下 明彦、山本 朋弥、山本 秀子、山本 厚子、湯口 靖弘、尹 美星、

横山 多津枝、吉川 敦、吉田 邦利、吉田 紀子、吉武 尚子、与曾田 一雄、和田 恵美子、和田 位、渡辺 逸雄、渡辺 新、渡部 裕子

【団体】〔敬称略〕

あぐら会 足立光生、イエスのカリタス修道女会管区本部、ウニオーネ本部、大森聖マリア幼稚園、カトリック新田原教会 井手公平、カトリック調布教会、カトリック浜松教会、カトリック東仙台教会海外協力の会、カトリック碑文谷教会、カトリック由比ガ浜教会婦人会、カトリック調布教会聖歌隊、カトリック調布教会日曜ミニバザーグループ、カリタス学園同窓会、カリタス小学校、カリタス女子中学高等学校、カルメル修道院、コングレガシオン・ド・ノートルダム修道会管区本部、サレジオン国際学園目黒星美小学校、サレジオン国際学園世田谷中学高等学校、サレジオン国際学園世田谷中学校さつき会、サレジオン・シスターズ大分修道院、サレジオン・シスターズ管区本部、サレジオン・シスターズ大村修道院、サレジオン・シスターズ世田谷修道院、サレジオン・シスターズ玉造修道院、サレジオン・シスターズ調布聖ヨセフ修道院、サレジオン・シスターズ守護の天使修道院、サレジオン・シスターズ扶助者聖マリア修道院、サレジオン・シスターズマンマ・マルゲリータ修道院、サレジオン・シスターズ目黒修道院、サレジオ学院 キルトBee、サレジオ学院 保護者会、サレジオ学院中学校・高等学校、静岡サレジオ小学校、城星学園、星美学園短期大学同窓会ウニオーネ、星美学園幼稚園、調布星美学園、ドン・ボスコ社店頭募金、長崎星美幼稚園、那須トラピスト修道院、光丘教会有志(福岡)、別府光の園 松永 忠、ボスコワールド代表 松田 康子、目黒サレジオ幼稚園

【匿名の方】 76件

DBK [ドン・ボスコ基金] へのご支援とお祈りを、
今後ともよろしく願っています。

事務局からのお知らせ

- ・DBK [ドン・ボスコ基金] 事務局へのご連絡は、原則としてメールにてお願い致します(スタッフは常駐しておりません)。メールアドレスは dbkinfo@salesians.jp です。
- ・ゆうちょ銀行の払込用紙以外からご寄付くださる場合は、メールにて「氏名」「住所」「寄付希望先」「寄付者氏名の公表または匿名希望」「その他」をご連絡いただけますと幸いです。ご連絡がない場合は「任意(事務局一任)」「寄付者リストに記載」で受付させていただきます。ご連絡いただいたデータは御礼状および「DBKだより」の発送に使用させていただきます。
- ・昨今の郵便事情から、以前よりも郵便物の到着に日数がかかりますことをご了承ください。

DBKだより 第28号

2023年11月1日

発行人 濱口 秀昭

発行所 ドン・ボスコ基金

〒160-0011 東京都新宿区若葉1-22-12

サレジオ会日本管区本部内

Tel:03-3353-8355 Fax:03-3353-7190

Email: dbkinfo@salesians.jp

https://salesio.jp/about/dbk



DBK [ドン・ボスコ基金] は、特に助けが必要な青少年の保護育成を支援する、サレジオの基金です。

サレジオ会の創立者ドン・ボスコの精神を受け継ぎ、貧困・家庭問題・災害等により、特に助けを必要とする青少年を保護育成する国内外のプロジェクトを支援しています。



DBKウェブサイト
「DBKだより」
バックナンバーも
ご覧いただけます

ご寄付くださる方は以下にお振り込みください。

郵便振替口座名: ドン・ボスコ基金

口座番号: 00190-5-292253

●他の金融機関からお振込みの場合

金融機関: ゆうちょ銀行 店名: 〇一九 (ゼロイチキユウ)

預金種類: 当座預金 口座番号: 0292253

※寄付者氏名の非公表をご希望の方は、
払込用紙に「匿名希望」(のチェックマーク)を
ご記入ください。



恩人の皆様と支援先の方々のためにミサを
ささげるDBKスタッフ